

ヒストモナス病

ヒストモナス病は *Histomonas meleagridis* (ヒストモナス・メレアグリディス) という原虫の感染によって起る鳥類の寄生虫病です。平成 27 年には、県内飼養の七面鳥で初めてヒストモナス病の発生が確認されました。この事例では、鶏と七面鳥を一緒に飼っていたため、より感受性の高い七面鳥が発症したと考えられます。

➤ 感染するとどうなる？

鶏、七面鳥、クジャク、ウズラなど ^{じゆんけい} 鶏目鳥類の盲腸や肝臓に寄生することで下痢を起こし、その後衰弱します。特に七面鳥は死亡する確率が高いとされています。また、中雛、平飼い飼育、および、6月上旬から10月下旬に多く発生します。

➤ どのように感染する？

ヒストモナスが鳥に感染するには、**鶏盲腸虫**という別の寄生虫が大きく関与し、寄生虫が寄生虫を媒介する珍しい感染経路をとります。

鶏盲腸虫は鳥の盲腸内でヒストモナスを取り込むと、ヒストモナスを含む虫卵を産みます。この虫卵は便と一緒に排泄されることから、便と接触した同居の鳥が虫卵を経口的に取り込み感染します。

また、**シマミミズ**は虫卵を取り込み、鶏盲腸虫の越冬や長期間存続を可能にすることから、ヒストモナス媒介にも関与するとされています。



➤ どのように予防する？

発生予防・対策には、鶏盲腸虫の駆除や、糞をなるべく早く除去する、鶏舎へのミミズの侵入を防止する等の衛生管理が必要です。

また、七面鳥を鶏と同一場所で飼育しないことも重要といわれています。

日常の基本的な飼養衛生管理が有効ですので、今後とも適切な飼養衛生管理をお願いします。

